

平成20年度 南丹市事業評価表 (平成19年度 実施事業)

事業CD. 2132 事業名: 各種イベント等開催事業
 細事業名: _____

政策体系上の位置付け (参考) 平成20年度～ 総合振興計画実施事業

政 策: 第2章 自然・文化・人を活かした郷を創る
 基本施策: 4 ひとを温かく迎える
 主な施策: (3) イベント運営

所管部署名
 部局名: 企画管理部
 課 名: 企画推進課

科目CD. 1020106 作成日 平成20年10月21日

事業分類: B:ソフト事業
 新規事業 時限事業 (平成 年度迄)

実施根拠 (法令、条例等)
南丹市補助金等の交付に関する規則

事業運営方法 直営 一部委託 全部委託 補助等

委 託 先 民間 三セク NPO 学校 自治会・地縁団体
 その他 ()

事業概要

◆ 課題・目的 (どのような課題を解決するために実施した事業なのか)
 南丹市の地域資源や特色を活かしたイベントの開催を通じて地域コミュニティの活性化、市民交流の促進、都市交流の促進を図る。

◆ 活動内容 (具体的にどのような活動を行ったのか)
 補助金を交付し市民の取組みを支援。

◆ 対 象 (この事業を実施するにあたり、ターゲットとした者(物)は何か)
 イベント参加市民

◆ 結 果 (この事業を実施したことにより、どのような効果または結果が得られたのか)
 南丹市の良さを再発見し、郷土愛を育む中で市民意識の向上を図り、新たな地域コミュニティの活性化と、市民交流・都市交流の促進による地域活性化が図れる。

指 標		単 位	18実績	19実績	20予算	21計画
活 動 指 標	① そのべ龍神まつり			精 査 途 中		
	② ひよし水の杜フェスタ					
	③ 美山サイクルロード					
	④ 美山ふるさと祭					
	⑤					
対 象 指 標	① 実行委員			精 査 途 中		
	② 地域住民					
	③ 市外参加者					
成 果 指 標	① 統一イベント開催			精 査 途 中		
	②					
	③					

市民や議会等からの要望・意見 (要望や意見の内容とその内容を確認した手段は何か)

ふるさとを愛する思いを共有し、合併後の南丹市民の心がひとつになれるような統一したイベントの検討。

近隣市町村や民間企業での同種事業の実施状況

有

決算(予算)額	(千円)	13,818	10,083	7,490	7,490	
財 源 内 訳	使用料・手数料等	(千円)	0	0	0	0
	国・府支出金	(千円)	6,288	4,758	0	0
	地方債	(千円)	0	0	0	0
	一般財源	(千円)	7,530	5,325	7,490	7,490
職員従事時間	(人)		2.79			
人件費 ※	(千円)		18,314			
トータルコスト ※	(千円)		28,397			

※人件費は、職員の給与・諸手当・共済などから、一定の基準に基づき算定したおおよその額です。
 ※人件費およびトータルコストは、あくまでも参考値です。

【公共性の評価】

- (1) 行政の守備範囲 (民間や市以外の機関等が実施すべき事業ではなかったか)
- 法令等により定められた事業 市が実施すべき事業 行政内部の事業
- 民間等での実施は見込めない 民間等での実施も可能

説明: 行政主導から市民協働の取り組みへ移行

- (2) 事業選定の妥当性 (事業の目的や意図が政策や施策の目指す方向にあっているか)
- 施策等の実現に向けた事業 施策等の方向とマッチしていない

説明: 旧町のイベントをそのまま継続している

- (3) 対象の妥当性 (事業の本質から考えて的を得た対象を定めているか)
- 本質に沿った対象である 的を得た対象となっていない

説明: イベント参加市民

【有効性の評価】

- (4) 課題解決への有効度 (目的の達成や、課題解決のために有効的な事業か)
- かなり有効的 当初の予想どおり 予想しても有効的でなかった

説明: 旧町からのイベント継続のため

- (5) 施策実現に対する有効度 (総合計画の施策実現に対して有効的な事業か)
- かなり有効的 当初の予想どおり 想定よりも有効的でなかった

説明: 旧町の枠を超えられず市民が一体となっていない感がある

- (6) 成果向上の余地 (施策実現に向け更なる成果向上の余地はあるか)
- 大きい 小さい 無い

説明: 旧町意識を払拭し市民の心をひとつに

- (7) 類似事業との統合・再編・連携の余地 (他の類似事業と統合や連携ができないか)
- 統合や連携等の検討可能 統合や連携はできない 類似事業がない

説明: 南丹市民の心がひとつになれる統一イベント開催

新たに生じた課題・解決できなかった課題等

南丹市が誕生から未だに旧町の枠を超えて市民の心がひとつになれるイベントが実施できていない。真の地域活性化につながるイベントとなっているか。

改革案 (いつ、どのような改革を、どのような手段で行うのか)

21年度からそれぞれのイベントを見直し、22年度から南丹市民が心をひとつにできるような統一したイベントを市民協働により開催していく。

【緊急性の評価】

- (8) 課題解決への緊急度 (なぜ早期に実施しなければならなかったか)
- 法令等により期限がある 他事業よりも効果が大い 早期の取り組みが必要
- 他事業よりも優先度が高い 市民の生命・財産を守るため 緊急性は低い

説明: 財政的状况により実施の有無について検討の余地あり

【効率性の評価】

- (9) コスト削減の余地 (事業内容、職員労力、仕事の進め方などから)
- 削減の余地あり 削減の余地なし

説明: 統一イベントとする

- (10) 受益者負担の適正 (社会状況等から受益者の負担は適正か)
- 正当な受益者負担 見直す必要あり 負担を強いる事業ではない

説明: 内容により負担も必要 (遊具・出店関係・各種協力金等)

【協働性の評価】

- (11) 市民との協働による事業実施 (協働による実施を検討したか)
- 協働事業には不向き 協働では実施していない 協働で行ったが主体は行政
- 協働で行ったが住民主体は一部 市民等が主体となって実施

説明: 市を事務局とする実行委員会組織による運営

- (12) 協働事業としての推進の余地 (今後、協働による推進できる余地はないか)
- 余地あり 余地なし

説明: 市民協働による企画推進・開催

所 属 長 総 括 評 価

広域な市域において、統一的なイベント開催はかなりの検討が必要であるが、旧町単位での旧町からのイベントについては、一考を要するところである。

※事務局使用欄

一次評価	廃止	南丹市民がひとつになるためのイベントを新たに見出すことが必要と考える。
二次評価	継続 (現状維持)	南丹市一体となったイベントの必要性は節に感じるが、4イベントのみでなく、すべてのイベントを見直す中で決定すべきである。見直しの時期を明確にして進めていく必要があり、その時期までは各実行委員会の意思を尊重して継続の必要がある。但し、そのべ龍神まつりについては、現在開催の有無について検討中である。